科目名	【　　著作権　　】 発声・アクセント (3)	必修選択	必修選択	年次	2	開講区分	前期
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 2	担当教員	MCT高橋恭子
学科・コース	パフォーミングアーツ科 昼間Ⅰ部						
教員の略歴	テレビ、ラジオにてCMナレーションなど出演多数・またイベントなどでのMC・企画など活躍は多岐にわたる。また企業に対してのビジネスマナー・新人研修の指導も行う。						
授業の学習内容	話しをする、あるいは読む時、その人の知性と感性が求められる。よりよいコミュニケーションのために表現力をアップして、美しく魅力的な日本語を身につける。(豊かな声量、響きのよい声、柔らかで落ち着きのある声、品位を感じられる声作りで表現力をつける)この科目は1年生以上を対象とした言語文化の基礎科目。						
到達目標	自分の話し方をありのままに捕えて、客観的に見つめ直し言葉の世界を豊かにし感性を磨くことができる。相手の心に届く「声」を使えるようになる。						
評価方法と基準	定期試験（実技、筆記、レポート等）の成績により評価する						

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	全体の講義内容について　基本の知識　機転力・ハプニングが起こった時のトレーニング等身体で憶えられる
2	復習　基本トレーニング ～実践（呼吸法・音声器官について理解できる）　おさらい⇒完成させる
3	復習　基本トレーニング ～実践（呼吸法・音声器官について理解できる）　おさらい⇒完成させる
4	発声法Ⅰ　基本の復習ができる 「あ～た行」
5	発声法Ⅱ　基本の復習ができる 「な行～鼻濁音」
6	発音実践（母音と子音・拗音など。鼻濁音について理解できる）
7	発音実践（母音と子音・拗音など。鼻濁音について理解を深められる）
8	実践：鼻濁音テスト　自分の苦手部分を見つけることができる
9	機転力トレーニング（実践・テスト）　対応力を身につける事ができる
10	コミュニケーションについてⅠ　コミュニケーション力を鍛えることができる
11	コミュニケーションについてⅡ　協調性を鍛えることができる
12	表現法I について理解できる（自己表現とスピーチについて）
13	定期テスト～発音を活かしたイベントを企画して発想力、企画力、協調性を身に付けることができる
14	定期テスト～発音を活かしたイベントを開催して対応力、適応力、協調性を身に付けることができる
15	イベントを振り返り、個人・グループ反省の中で、修復力を身に付ける

【使用教科書・教材・参考書】 □

使用教科書は特に使用無いが、必要に応じてプリントを配布。参考文献は授業中に紹介する。

科目名	【　　著作権　　】 発声・アクセント（4）	必修選択	必修選択	年次	2	開講区分	後期
学科・ｺｰｽ	パフォーミングアーツ科 昼間Ⅰ部	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2	担当教員	MCT高橋恭子
教員の略歴	テレビ、ラジオにてCMナレーションなど出演多数・またイベントなどでのMC・企画など活躍は多岐にわたる。また企業に対してのビジネスマナー・新人研修の指導も行う。						
授業の学習内容	話しをする、あるいは読む時、その人の知性と感性が求められる。よりよいコミュニケーションのために表現力をアップして、美しく魅力的な日本語を身につける。(豊かな声量、響きのよい声、柔らかで落ち着きのある声、品位を感じられる声作りで表現力をつける)この科目は1年生以上を対象とした言語文化の基礎科目です。						
到達目標	自分の話し方をありのままに捕えて、客観的に見つめ直し言葉の世界を豊かにし感性を磨くことができる。相手の心に届く「声」を使えるようになる。						
評価方法と基準	定期試験（実技、筆記、レポート等）の成績により評価する						

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	前期復習～個人の弱点を確認し後期の目標や改善点を確認できる
2	表現法Ⅱ について理解できる （標準語と方言）
3	今まで学んだ事を表現するⅠ（個人別）ものを読むことができる。
4	今まで学んだ事を表現するⅡ（個人別）身体で表現ができる
5	表現法実践　グループ分け（2～3名）　他のグループの発表から学ぶことができる
6	表現法実践　グループ分け（2～3名）　自分の発表から課題点を見つけ出せる
7	自己PRの作り方・伝え方　相手に伝わりやすいPRの方法を学ぶことができる
8	自己PRの作り方・伝え方（発表・レポート）　客観的に自分を見つめることができる
9	発表形式での復習　課題を見つけ出すことができる
10	発表形式での復習　課題をクリアにする力を養うことができる
11	敬語について～話し言葉の実践ができる（接遇表現・敬語）
12	総合最終テスト　1年間の成長と課題を振り返ることができる
13	定期テスト～発音発声を取り入れたイベントを企画して発想力、企画力、協調性を身に付ける
14	定期テスト～発音発声を取り入れたイベントを開催して対応力、適応力、協調性を身に付ける
15	イベントを振り返り、個人・グループ反省の中で、修復力を身に付ける

【使用教科書・教材・参考書】 □
使用教科書は特に使用無いが、必要に応じてプリントを配布。参考文献は授業中に紹介する。

科目名	【　殺　陣　】 演技基礎(3)	必修選択	必修選択	年次	2	開講区分	前期
学科・ｺｰｽ	パフォーミングアーツ科 昼間Ⅰ部	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2	担当教員	雨夜秀興
教員の略歴	2000年にモデルから舞台の道へ。現在、脚本家、演出家、TVリポーター、ナレーターなど多岐に渡り活動中						
授業の学習内容	例えば、速く走りたいと思っている人がいたとします。ひたすら走り込み、反復することもとても大切なことですが、いつか限界がきます。「どうして速く走ることができないのか？」「どうすれば速く走ることができるのか？」と「考え」「気付く」ことが成長の鍵となります。演技も同様に、ただ台本に書かれた台詞を延々と読むだけでは成長に繋がりません。自分の頭で、考え、気付くために、演ずる以外の様々なアプローチで授業を展開し、演技の基盤を作っていきます。						
到達目標	演ずるとは何かを理解し、舞台、ドラマ、アフレコ等様々な場面で、高い意識で取り組めるようになる						
評価方法と基準	定期試験（実技、筆記、レポート等）の成績により評価する						

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	与えられる課題に対し、身体表現で伝えられることができる。
2	三人でのエチュードを行い、二つのことを同時に考え瞬時に台詞に転換することができる。
3	とある家族の構成表から、プロフィールを作り、それぞれの関係性・背景を掘り下げることができる。
4	台本を用い、登場人物それぞれの関係性、背景を掘り下げ、共演者と擦り合わせを行い認識を共通させる事ができる
5	表現において、背景を踏まえたキャラクターの性格付けができる。
6	台詞を使わずに、身体のみを使った表現ができ、かつ時間内にコメディをつくることができる。
7	人形（物質）を使い、身体以外での表現を発想することができる。
8	パワーマイムを用い、情景描写、心情描写をすることができる。
9	仮想商品プレゼンテーションを行い、大衆に商品の用途・魅力を伝えることができる。
10	イベントに向けてのオーディションに於いて卒業後の実戦をイメージし取り組むことができる。
11	イベントに向けた照明プラン、音響プラン、美術プランを作成し提案することができる。
12	イベントに向けて衣装・メイク・小道具等、滞りなく準備をすることができる。
13	イベント（公演）場当たり・リハーサル～客目線で考え演じることができる
14	【定期試験】イベント（公演）本番日～「見せる」意識を養うことができる。
15	反省会（映像確認）にて自分の課題を確認することができる

【使用教科書・教材・参考書】
教材等はこちらで用意。要動きやすい格好・筆記用具。

科目名	【　　殺 陣　　】 演技基礎（4）	必修選択	必修選択	年次	2	開講区分	後期
学科・ｺｰｽ	パフォーミングアーツ科 昼間Ⅰ部	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2	担当教員	雨夜秀興
教員の略歴	2000年にモデルから舞台の道へ。現在、脚本家、演出家、TVリポーター、ナレーターなど多岐に渡り活動中						
授業の学習内容	演技の本質を理解し、実践に向けて必要なスキルを身に付けていきます。題材は適宜（以下Bとする）使用します。照明・音響を自分たちで駆使し、本番を想定した舞台を創ります。一般的な公演と違い、表と裏を知ることで、特別な経験をすることができます。卒業(進級）公演に向けて、大きな自信をつけていきます。						
到達目標	演技・歌・ダンス、総合的な表現を通じて全ての能力を、高い水準まで引き上げる。						
評価方法と基準	定期試験（実技、筆記、レポート等）の成績により評価する						

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	審査する側・される側に分かれ、擬似オーディションを行う。適切な挨拶、立ち方、座り方、発声を行うことができる。
2	審査する側・される側に分かれ、擬似オーディションを行う。基本的な立ち居振る舞いに、適切なアドバイスができる。
3	審査する側・される側に分かれ、擬似オーディションを行う。適切な表情、発想、演技表現を行うことができる。
4	審査する側・される側に分かれ擬似オーディションを行う。実践を想定したオーディションに対し適切なアドバイスができる。
5	演出体験をする。演出家の意図・理想を、演者に伝えることができる。
6	演出体験をする。演出家の意図・理想を理解し、実践することができる。
7	演出体験をする。オリジナリティを意識した演出を発想し、演者に正確に伝えることができる。
8	演出体験をする。演出家のオリジナリティを意識した演出を理解し、実践することができる。
9	現状のレベルを鑑みwe areに向けた作品の選定を客観的に行うことができる。
10	それぞれが与えられた役割に責任を持ち、「計画」を立てることができる。
11	一つの役が作品全体を支えていることを理解し、自覚し、話し合い、行動することができる。
12	二年間ないし三年間積み上げてきたものを遺憾なく発揮し、weareに向けて一致団結することができる。
13	イベント（公演）場当たり・リハーサル～客目線で考え演じることができる
14	【定期試験】イベント（公演）本番日～「見せる」意識を養うことができる。
15	反省会（映像確認）にて自分の課題を確認することができる

【使用教科書・教材・参考書】

教材等はこちらで用意。要動きやすい格好・筆記用具。

科目名	【HIP HOP】 Band Ensemble(3)	必修選択	必修選択	年次	2	開講区分	前期
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 (2)	担当教員	加藤菜保 森田貴裕
学科	パフォーミングアーツ科						

教員の略歴	エレクトーンデモンストレーターを経て、ミュージックスクール、劇団などで、ボーカル指導、タレント育成を務めるほかシンガーソングラーター、キーボーディスト、アレンジャーとしても活動
授業の学習内容	課題曲を用いた、楽器演奏、歌唱をバンドスタイルで実践し、解説指導する アンサンブルにとって必要なコミケーション能力や、様々なジャンルの演奏スタイルを 学び、実践に結びつける。
到達目標	バンド演奏を通して、豊かな音楽表現、ステージパフォーマンスができるようになる。
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する

回数	授業計画・内容
1	楽譜に記載されたコード、メロディーを正確に理解し、演奏表現できる。
2	3連符のシャッフルと、16分音符のハネのリズムを身につけ、演奏できる。
3	8ビートロックグルーヴを理解し,演奏表現できる。
4	ロックサウンドについて、より熱量の高い演奏ができる。
5	アンサンブルにおける音量のコントロールを理解し、演奏表現できる。
6	スロー曲のテンポ感をキープし、情感豊かに演奏できる。
7	実際のステージにおける演奏前の準備について学習し、実際に発表する。
8	ダイナミクスの変化に対応した演奏ができる。
9	同期音源を利用しクリックを用いた演奏ができる。
10	16ビートを理解し、ダンスミュージックに不可欠なグルーヴを身につける。
11	互いのパートのサウンドを意識したアンサンブルができる。
12	前期テスト　自分の課題点を見つけることができる。
13	イベント週を通して周りと協力しなから作品をつくることができる
14	イベント週を通して舞台のリハーサルを経験することができる
15	イベント本番 舞台に立ち、実際にパフォーマンスを披露することができる

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	【　HIP HOP　】 Band Ensemble(4)	必修選択	必修選択	年次	2	開講区分	後期
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 (2)	担当教員	加藤菜保 森田貴裕
学科	パフォーミングアーツ科						

教員の略歴	エレクトーンデモンストレーターを経て、ミュージックスクール、劇団などで、ボーカル指導、タレント育成を務めるほかシンガーソングラーター、キーボーディスト、アレンジャーとしても活動
授業の学習内容	課題曲を用いた、楽器演奏、歌唱をバンドスタイルで実践し、解説指導するアンサンブルにとって必要なコミケーション能力や、様々なジャンルの演奏スタイルを学び、実践に結びつける。
到達目標	バンド演奏を通して、豊かな音楽表現、ステージパフォーマンスができるようになる。
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する

回数	授業計画・内容
1	ルバートのアンサンブル、ジャズファンクの表現を習得する。
2	他パートのメロディーやフレーズを理解し、調和した演奏を自ら表現できる。
3	曲調に準じたオリジナリティのあるフレーズや歌い回しを自ら創作表現できる。
4	それぞれの演奏についてディスカッションし、演奏者同士でのフィードバックをもとに自らの演奏を向上できる。
5	エンターテインメントにおける演奏者としての立ち居振る舞いについて分析し、理解できる。
6	実際のライブにおける、演奏の方向性やプランをバンドメンバーで共有し、一体感のある演奏ができるようになる。
7	歌詞表現に追従した演奏を習得できる。
8	モニタリングバランスによる自らの演奏への影響を体感し、最適なモニター環境を作ることができる。
9	ボーカルのキャラクターに沿った音量感やグルーヴに対応した演奏ができる。
10	キーやアレンジの変更に柔軟に対応できる。
11	複数楽曲を暗譜し、ステージングを意識した演奏ができる。
12	後期テスト　自分の課題点を見つけることができる。
13	進級制作展 準備週を通して周りと協力しなから作品をつくることができる
14	進級制作展 準備週を通して舞台のリハーサルを経験することができる
15	進級制作展 舞台に立ち、実際にパフォーマンスを披露することができる

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	【　第二外国語　】 韓国語(3)	必修選択	必修選択	年次	2	開講区分	前期
学科	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	90 (6)	担当教員	具イギョン
教員の略歴	日本の語学スクール、文化スクールなどで韓国語講師を務める。						
授業の学習内容	ハングルを学び、読み書きを身につけて会話する。						
到達目標	① ハングルが読めるようになる。 ② 簡単な日常会話ができるようになる。						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						

回数	授業計画・内容
1	ガイダンス、自己紹介を学ぶことができる
2	ハングルの構成を知ることができる
3	ハングルを習得できる（基本母音・子音）
4	ハングルを習得できる（激音・濃音）
5	ハングルを習得できる（パッチム・合成母音）
6	挨拶の表現を習得できる
7	自己紹介の表現を習得できる　挨拶の文章が作成できる　練習発表
8	「～は　～です」の表現の習得できる、会話練習
9	「～ではありません」などの否定文の表現の習得できる、会話練習、　職業関連単語の学習
10	「これ・それ・あれ」 などの代名詞の学習ができる、会話練習
11	疑問形の表現の習得ができる、家族関連単語の学習できる
12	前期試験（筆記試験、口頭試験）
13	イベント週を通して周りと協力しなから作品をつくることができる
14	イベント週を通して舞台のリハーサルを経験することができる
15	イベント本番 舞台に立ち、実際にパフォーマンスを披露することができる

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	【　第二外国語　】 韓国語(4)	必修選択	必修選択	年次	2	開講区分	後期
学科	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	90 (6)	担当教員	具イギョン
教員の略歴	日本の語学スクール、文化スクールなどで韓国語講師を務める。						
授業の学習内容	様々な表現を学び会話する。						
到達目標	簡単な日常会話が自信をもって話せるようになる。						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						

回数	授業計画・内容
1	「います・あります」、「いません・ありません」の表現の習得ができる、会話練習
2	基本動詞の活用の学習ができる、会話練習
3	形容詞の活用の学習ができる、会話練習
4	漢字語数字と固有語数字の学習ができる、会話練習
5	「いくら・いつ」などの表現の習得ができる、会話練習
6	時間関連の表現の習得ができる、会話練習
7	過去形の表現の習得ができる、会話練習
8	敬語（現在系）の活用ができる
9	敬語（過去形）の活用ができる
10	確認の表現と逆節を理解することができる
11	希望・可能・能力の表現ができる
12	後期試験（筆記試験、口頭試験）
13	進級制作展 準備週を通して周りと協力しなから作品をつくることができる
14	進級制作展 準備週を通して舞台のリハーサルを経験することができる
15	進級制作展 舞台に立ち、実際にパフォーマンスを披露することができる

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	【　スタジオワーク　】 Girls HIPHOP(3)	必修選択	必修選択	年次	2	開講区分	前期
学科	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	60 (4)	担当教員	寺下亜由美
教員の略歴	インストラクター、有名アーティストのバックダンサー出演多数						
授業の学習内容	ダンスには色々なジャンルがあり、それぞれ共通する基礎の部分や体力づくり、リズムトレーニングを強化しながら、その中でも女性らしい動きを取り入れながら表現できる動きを身につける。						
到達目標	セルフプロデュースができる/基礎を学びそれを応用できる/女性らしい動きができる お仕事や授業を受ける上で求められているものに応えることができる/期日までに課題提出ができる						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						

回数	授業計画・内容
1	自己紹介等・ダンスのお仕事などについて説明　体づくり・リズムトレーニングができる
2	基礎の強化　体づくり　リズムトレーニング　アイソレーションの動かし方を身につける
3	グルーヴ感の習得ができる
4	ステップの基礎を身につける
5	ウォーキングを取り入れた振付をかっこよく踊ることができる
6	課題の振付にフォーメーションを加え、1人ではできない仲間との表現方法に挑戦できる
7	前回の続き　練習　発表ができる
8	課題の振付を覚えることができる
9	チームごとに分かれ、自分たちでフォーメーション等を考えることができるようになる
10	テストに向けた課題制作ができる
11	テストに向けた課題制作とリハーサルを兼ねて発表ができる
12	テスト・課題の発表本番を経験できる
13	イベント週を通して周りと協力しなから作品をつくることができる
14	イベント週を通して舞台のリハーサルを経験することができる
15	イベント本番 舞台に立ち、実際にパフォーマンスを披露することができる

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	【 スタジオワーク 】 Girls HIPHOP(4)	必修選択	必修選択	年次	2	開講区分	後期
学科	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	60 (4)	担当教員	寺下亜由美
教員の略歴	インストラクター、有名アーティストのバックダンサー出演多数						
授業の学習内容	ダンスには色々なジャンルがあり、それぞれ共通する基礎の部分や体力づくり、リズムトレーニングを強化しながら、その中でも女性らしい動きを取り入れながら表現できる動きを身につける。						
到達目標	セルフプロデュースができる/基礎を学びそれを応用できる/女性らしい動きができる お仕事や授業を受ける上で求められているものに応えることができる/期日までに課題提出ができる 1年間で習得したもので振付制作ができる						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						

回数	授業計画・内容
1	前期を振り返って、今後の目標をもう一度確認ができる　ストレッチ、体力づくり
2	ストレッチ、アイソレーション、筋トレ、リズムトレーニング、振付を覚えることができる
3	前回の振付の確認と続きを覚えることができる
4	振付の完成　全員でフォーメーションをつけることができる
5	前回のフォーメーション付き振付の確認と発表ができる
6	新しい振付を覚えることができる
7	前回の振付の確認、続きを覚えることができる
8	チームに分かれて振付のフォーメーションを作成できる
9	チームごとに確認、発表ができる
10	テストに向けた課題制作ができる
11	テストに向けた課題制作とリハーサルを兼ねた発表ができる
12	テスト・課題の発表本番を経験できる
13	進級制作展 準備週を通して周りと協力しなから作品をつくることができる
14	進級制作展 準備週を通して舞台のリハーサルを経験することができる
15	進級制作展 舞台に立ち、実際にパフォーマンスを披露することができる

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	【　R&B　】 フリートーク（3）	必修選択	必修選択	年次	2	開講区分	前期
学科・コース	パフォーミングアーツ科　昼間Ⅰ部	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2	担当教員	城野庸子
教員の略歴	ラジオをメインにプロデューサー・ディレクターとして番組やイベントを製作。また、東南アジアを中心とした海外旅行番組では、レポーター、コーディネーター、通訳もこなす						
授業の学習内容	①「声」の表現者として、ラジオDJやパーソナリティー、MC、レポーター等、 活躍の場を広げる為の、基礎的なフリートーク力の養成 ②自己PR力の強化、ナレーション・発声・滑舌、オーディション対策						
到達目標	③不特定多数を意識したフリートークの重要性と構成力（組み立て方）及び、コミュニケーション 能力を高める						
評価方法と基準	定期試験（実技、筆記、レポート等）の成績により評価する。						

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	イントロダクション/ フリートークとは？を掘り下げて考えて自分を考えることができる
2	自己紹介①（ベーシック）を行い課題を考えることができる
3	自己紹介②（自身が一番得意とする事、PRすべきポイントの言葉選び）を行える
4	フリートークネタの探し方をまとめることができる
5	アナウンサー、DJ、パーソナリティー、youtuberの違いがわかる
6	フリートーク実践① 特定層に向けてのテーマを考えることができる
7	フリートーク実践② 不特定層に向けてのテーマを考えることができる
8	インタビューの進め方と受け答え①にて課題を理解できる
9	インタビューの進め方と受け答え②にて理解した課題を工夫することができる
10	レポーターとしての表現力とボキャブラリーを広げ、深めることができる
11	前期授業総括①にて反省・意見交換を行い課題をみつける
12	前期授業総括②にて課題を修整する技術をみつけることができる
13	トーク番組を企画しタイムスケジュール・キャスティングができる
14	トーク番組を演出企画を行いしコーナーを演出することができる。
15	定期テスト～トーク番組（録音・録画）を役割事に替えてチェック→自分の課題をみつけることができる

【使用教科書・教材・参考書】 □

科目名	【 R&B 】 フリートーク(4)	必修選択	必修選択	年次	2	開講区分	後期
学科・コース	パフォーミングアーツ科昼間Ⅰ部	授業形態	演習	総時間(単位)	30 2	担当教員	城野庸子
教員の略歴	ラジオをメインにプロデューサー・ディレクターとして番組やイベントを製作。また、東南アジアを中心とした海外旅行番組では、レポーター、コーディネーター、通訳もこなす						
授業の学習内容	①「声」の表現者として、ラジオDJやパーソナリティー、MC、レポーター等、 活躍の場を広げる為の、基礎的なフリートーク力の養成 ②自己PR力の強化、ナレーション・発声・滑舌、オーディション対策						
到達目標	③不特定多数を意識したフリートークの重要性と構成力(組み立て方)及び、コミュニケーション 能力を高める						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する。						

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	情報の発信と受け取り方(ラジオDJ、パーソナリティーとして)を身に付けることができる
2	フリートークと原稿読みの違い①を考え身に付けることができる
3	フリートークと原稿読みの違い②を考え身に付けることができる
4	イントネーションと方言を知り、使い分けられる
5	レポーターに求められるものとは？をテーマに意見を出せる
6	レポーター実践(ロケ)を行いトーク技術を学ぶことができる
7	レポーター実践(スタジオ)を行いトーク技術を学ぶことができる
8	レポーター実践(イベント会場)を行いトーク技術を学ぶことができる
9	ディスカッション(司会者の役割)① 周りを観察することができる
10	フリートークとレポート、レスポンス① 状況を理解した受け答えができる
11	フリートークとレポート、レスポンス② 受け答えの技術をみにつけることができる
12	定期テスト～ディスカッション(司会者の役割) ② 状況を理解し相手の立場を考えMCができる
13	定期テスト～ディスカッション(パネラーの役割) 質問や情報番組・またはバラエティでの立ち振る舞いができる
14	前期・後期総括①にて課題をみつけることができる
15	前期・後期総括②にて、周りに意見を伝えることができる

【使用教科書・教

科目名	【　　キャリア教育　　】 キャリア教育(3)	必修選択	必修	年次	2	開講区分	前期
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 (2)	担当教員	成田寿美子
学科	パフォーミングアーツ科						

教員の略歴	1996年FMノースウェーブにおいてニュース・お天気などを1年半担当。2003年より(株)MCミュース代表取締役就任。洞爺湖サミット関連やエイペックなどのレセプションをこなし、CM、ナレーターとしても活動中
授業の学習内容	就職活動やオーディンションに向けた、社会人としての会話スキル、社会的スキル、サービスマインドを学び、円滑にコミュニケーションが行えるように、基本的な知識や行動学を学習する。実社会を視野に入れながら、知識だけではなく、すぐに役立てることができるよう多数のシュミレーションを行う。
到達目標	社会人にとって不可欠なコミュニケーション力、ビジネスの基本知識を総合的に身につける。その時、その場にあった挨拶や、聞きとりやすい声、好感を持てる立ち振る舞いなどを習得し、さらにはプレゼンテーション力など実社会に通用する自己表現スキルを身につける。
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーションを聞き、授業の到達目標を理解できる
2	第一印象の大切さ・自分を知ることができる
3	第一印象の5原則　挨拶・表情・立ち振る舞い／自己表現スキルを身につける
4	第一印象の5原則　身だしなみ・言葉遣い／自己表現スキルに身につける
5	敬語①尊敬語・謙譲語・丁寧語の規則性を知ることができる
6	敬語②尊敬語・謙譲語・丁寧語を正しく使うことができる
7	敬語の理解度を確認できる
8	ビジネス用語　明るい声・話す速度・好感を与える話し方・クッション言葉を身につける
9	電話応対①　一般の電話のマナー　電話を受けることができる
10	電話応対②　ビジネス電話をかけることができる
11	お客様応対の基本を身につける
12	前期定期試験 ロールプレイングをし、学びを体感できる
13	イベント週を通して周りと協力しなから作品をつくることができる
14	イベント週を通して舞台のリハーサルを経験することができる
15	イベント本番 舞台に立ち、実際にパフォーマンスを披露することができる

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	【　　キャリア教育　　】 キャリア教育(4)	必修選択	必修	年次	2	開講区分	後期
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 (2)	担当教員	成田寿美子
学科	パフォーミングアーツ科						

教員の略歴	1996年FMノースウェーブにおいてニュース・お天気などを1年半担当。2003年より(株)MCミュース代表取締役就任。洞爺湖サミット関連やエイペックなどのレセプションをこなし、CM、ナレーターとしても活動中
授業の学習内容	就職活動やオーディンションに向けた、社会人としての会話スキル、社会的スキル、サービスマインドを学び、 円滑にコミュニケーションが行えるように、基本的な知識や行動学を学習する。実社会を視野に入れながら、知識だけではなく、すぐに役立てることができるよう多数のシュミレーションを行う。
到達目標	社会人にとって不可欠なコミュニケーション力、ビジネスの基本知識を総合的に身につける。その時、その場にあった挨拶や、聞きとりやすい声、好感を持てる立ち振る舞いなどを習得し、さらにはプレゼンテーション力など実社会に通用する自己表現スキルを身につける。
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する

回数	授業計画・内容
1	一般常識・各種マナー①ビジネス文章を理解できる
2	一般常識・各種マナー②名刺交換・席次の知識・訪問と応対ができる
3	一般常識・各種マナー理解度の確認ができる
4	電話応対の応用ができる
5	人間関係のマナー　目上の人や失敗をしたときの対応など人間関係を築くためのマナーを理解できる
6	イベント進行①スタッフの役割ができる
7	イベント進行②実際にスタッフとして進行、紹介などができる
8	プレゼンテーション①　発表することができる
9	プレゼンテーション② 発表し、質疑応答ができる
10	グループワーク　互いの意見を尊重し、意見交換ができる
11	グループワーク　自分が伝えたいことを言語化し伝えることができる
12	後期定期試験 授業全体の理解度を確認できる
13	卒業制作展 準備週を通して周りと協力しなから作品をつくることができる
14	卒業制作展 準備週を通して舞台のリハーサルを経験することができる
15	卒業制作展 舞台に立ち、実際にパフォーマンスを披露することができる

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	【　ヴォイストレーニング　】 殺陣（アクション）（3）	必修選択	必修選択	年次	2	開講区分	前期
学科・ｺｰｽ	パフォーミングアーツ科 昼間Ⅰ部	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2	担当教員	石川哲也
教員の略歴	東京のアクションクラブ～劇団ひまわり札幌俳優養成所に所属。現在は、演劇ユニット主宰・俳優業および、他劇団やタレント養成所でのアクションの指導・振付・演出等を行っている。						
授業の学習内容	自分の表現がどう見えるのか？どうすると人に伝わるのか？という点を突き詰めていくレッスン。 基本的なアクションの動きを通して、内面や体の使い方、距離感、位置取りなども考えていく。 伝える意図と伝わる意図は違ったり、人によって受け取られ方も変わるのでどう変化させてどう人に伝えるのか？を考えて表現を組み立てていく事が技術を養う。アクションはあくまでもお芝居の表現の一部、 身体能力が高ければ良いという訳ではなく表現力と相手とのコミュニケーションが必要です。ただ動ける体を作るのでは無く、シーンに応じた表現力を磨く。						
到達目標	・アクションを使い、自分のイメージ通りの動きを出来るようになる。 ・人のアクションの動きを見て変化の違いを感じ取ることができるようになる。 ・様々な表現を試すことができるようになる。 ・自分達でアクションシーンを組み立てる事ができるようになる。						
評価方法と基準	定期試験（実技、筆記、レポート等）の成績により評価する。						

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	前期レッスンの説明および個人個人の目的を知ることができる
2	ストレッチ及び受け身などのアクションの基礎を学ぶ。※これ以降毎時間取り組むことができる
3	木刀やボディアクションなどを使ったアクションの簡単な動きを学ぶことができる
4	足さばきや間合いなどアクションに必要な体の使い方、相手との距離感を把握することができる。
5	数チームに分かれて互いのアクションを見比べそれぞれのチームの違いを検証することができる。
6	数チームに分かれて部分的にアクションを組み立てることができる。
7	振り付けられたアクションを自分たちなりにアレンジをする事ができる。
8	振り付けられたアクションをテーマに沿って表現する事ができる。
9	自分たちで簡単なアクションシーンを一から作る事ができる。
10	自分たちで簡単なアクションシーンを作り、客観的にどう見えるか検証する。
11	振り付けられたアクションを元に相手のアクションを演出する事ができる。
12	各チームに分かれてアクションを作り、それらをまとめて一つのアクションシーンを作ることができる。
13	イベントの企画～アクションを取り入れ演舞を行うことで「見せる」意識を養うことができる
14	イベントの開催～アクションを取り入れ演舞を行うことで「見せる」意識を養うことができる
15	反省会（映像観察）にて課題を確認することができる

【使用教科書・教材・参考書】
・動きやすい服装（必要に応じて着替えのシャツなど）、上靴、飲み物（水または炭酸水、スポーツドリンクがベスト）、タオル

科目名	【　ヴォイストレーニング　】 殺陣（アクション）（4）	必修選択	必修選択	年次	2	開講区分	後期
学科・コース	パフォーミングアーツ科 昼間Ⅰ部	授業形態	演習	総時間（単位）	30 3	担当教員	石川哲也
教員の略歴	東京のアクションクラブ～劇団ひまわり札幌俳優養成所に所属。現在は、演劇ユニット主宰・俳優業および、他劇団やタレント養成所でのアクションの指導・振付・演出等を行っている。						
授業の学習内容	自分の表現がどう見えるのか？どうすると人に伝わるのか？という点を突き詰めていくレッスン。 基本的なアクションの動きを通して、内面や体の使い方、距離感、位置取りなども考えていく。 伝える意図と伝わる意図は違ったり、人によって受け取られ方も変わるのでどう変化させてどう人に伝えるのか？を考えて表現を組み立てていく事が技術を養う。アクションはあくまでもお芝居の表現の一部、 身体能力が高ければ良いという訳ではなく表現力と相手とのコミュニケーションが必要です。ただ動ける体を作るのでは無く、シーンに応じた表現力を磨く。						
到達目標	・アクションを使い、自分のイメージ通りの動きを出来るようになる。 ・人のアクションの動きを見て変化の違いを感じ取ることができるようになる。 ・様々な表現を試すことができるようになる。 ・自分達でアクションシーンを組み立てる事ができるようになる。						
評価方法と基準	定期試験（実技、筆記、レポート等）の成績により評価する。						

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	後期レッスンの説明および個人個人の目的を知ることができる。
2	基本的なアクション・リアクションの見直しを行うことができる。
3	力の入れ方、抜き方、伝え方を学ぶことができる。
4	コミカルなアクションとリアルなアクションの違いとそれに伴うリアクションを学ぶことができる。
5	様々な、歩き方、走り方、止まり方、など戦う以外のアクション・リアクションを学ぶことができる。
6	チームに分かれ体の使い方を意識した簡単なアクションを実践し検証し合う。
7	簡単な台本を元にそれぞれのチームの解釈で芝居作りを行う。※これ以降毎時間取り組むことができる。
8	各チームの芝居作りにおいて、必要な体の使い方、表現の取り組み方を理解していくことができる。
9	チームごとにそれぞれの芝居の質を感じ取り、作品の方向性と特色を生み出していくことができる。
10	中間発表を行い、互いのチームの特色などの変化を感じ取ることができる。
11	中間発表を経て感じた事を踏まえて作品の完成度を上げることができる。
12	クラス内発表を通じ、体を使った芝居を学び表現に生かすことができる。
13	イベントの企画～アクションを取り入れ演舞を行うことで「見せる」意識を養うことができる
14	イベントの開催～アクションを取り入れ演舞を行うことで「見せる」意識を養うことができる
15	反省会（映像観察）にて課題を確認することができる

【使用教科書・教材・参考書】
・動きやすい服装（必要に応じて着替えのシャツなど）、上靴、飲み物（水または炭酸水、スポーツドリンクがベスト）、タオル

科目名	【　映像制作　】 Voice Training(3)	必修選択	必修選択	年次	2	開講区分	前期
学科	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	60 (4)	担当教員	石名坂ふぶき
教員の略歴	2017年～エイベックス所属ダンス&ヴォーカルグループにて活動、2021年～ソロ活動						
授業の学習内容	ピッチの安定、体を使ったリズムキープなどの基礎能力の向上、コーラス技術の習得、フレーズの持って行き方や語尾の処理など歌のクオリティを上げていく。						
到達目標	歌唱力、歌唱パフォーマンスレベルの向上させ、 プロとしてのボーカルパフォーマンスが出来るようになる。						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						

回数	授業計画・内容
1	【発声基礎】腹式呼吸、リズムキープの練習で発生時の体を使い方を学ぶことができる
2	【課題曲1】ピッチ安定の練習を学ぶことができる
3	【課題曲1】ピッチ安定の練習→フレージングの決定ができるようになる
4	【課題曲1】フレージングの決定→フレーズをまとめる練習を学ぶことができる
5	【バラード課題曲2】パート分けしてコーラス練習にてハーモニーの習得①ができる
6	【バラード課題曲2】パート分けしてコーラス練習にてハーモニーの習得②ができる
7	【バラード課題曲2】チーム分けして振りをつけダンスがありながらコーラスをとるパフォーマンス練習ができる
8	【アップテンポ課題曲3】抑揚と歌詞のアクセントの付け方の習得ができる
9	【アップテンポ課題曲3】ハモリをとってリードに合わせる練習ができる
10	【アップテンポ課題曲3】振りがありながら前回までの技術を体現する練習ができる
11	歌唱テストで自分の実力を確認できる
12	ハモリ、コーラス　前期実技テスト
13	イベント週を通して周りと協力しなから作品をつくることができる
14	イベント週を通して舞台のリハーサルを経験することができる
15	イベント本番 舞台に立ち、実際にパフォーマンスを披露することができる

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	【　映像制作　】 Voice Training(4)	必修選択	必修選択	年次	2	開講区分	後期
学科	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	60 (4)	担当教員	石名坂ふぶき
教員の略歴	2017年～エイベックス所属ダンス&ヴォーカルグループにて活動、2021年～ソロ活動						
授業の学習内容	ピッチの安定、体を使ったリズムキープなどの基礎能力の向上、コーラス技術の習得、フレーズの持って行き方や語尾の処理など歌のクオリティを上げていく。						
到達目標	歌唱力、歌唱パフォーマンスレベルの向上させ、 プロとしてのボーカルパフォーマンスが出来るようになる。						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						

回数	授業計画・内容
1	【発声】前期のおさらい、体を使った発声練習のおさらいができる
2	【課題曲4】リズムキープ練習→歌詞の理解を深めそこからフレージングを決定することができる
3	【課題曲4】前回決めたフレージングを元に振りがある上での歌唱練習ができる
4	【課題曲4】感情のパフォーマンスの表現練習を学ぶことができる
5	【バラード課題曲5】リズムキープ練習→ロングトーンピッチの安定ができるようになる
6	【バラード課題曲5】ビブラート、フェイクの習得①ができる
7	【バラード課題曲5】ビブラート、フェイクの習得②→ハモリの練習ができる
8	【アップテンポ課題曲6】テンポが上がっても歌がリズムをキープ出来る様に練習し習得①できる
9	【アップテンポ課題曲6】テンポキープしながらの歌キープ練習②→コーラスライン習得ができる
10	【アップテンポ課題曲6】早いテンポをキープしながらハモリ&リードをとる練習ができる
11	歌唱テストで自分の実力を確認できる
12	ハモリ、コーラス　後期実技テスト
13	進級制作展 準備週を通して周りと協力しなから作品をつくることができる
14	進級制作展 準備週を通して舞台のリハーサルを経験することができる
15	進級制作展 舞台に立ち、実際にパフォーマンスを披露することができる

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	【　殺陣　】 LOCK(3)	必修選択	必修選択	年次	2	開講区分	前期
学科	パフォーミングアーツ科昼間Ⅰ部	授業形態	演習	総時間（単位）	60 (4)	担当教員	船木稜

教員の略歴	KING DANCE MATURI FINAL10 優勝　PLW-1LOCKSIDE北海道大会優勝、東京大会BEST4　他優勝多数
授業の学習内容	・即興力を身につける。 ・音楽の感じ方を増やし、感性を身につける。 ・自分のオリジナリティ溢れるロックダンスを探し、探究心を身につける。
到達目標	・基礎のシルエットをかっこよく崩すことが出来る。 ・音楽アプローチの手段を増やし、よりSTOPが良くなるようにする事が出来る。 ・即興でロックダンスを踊れる様になる。
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する

回数	授業計画・内容
1	基本姿勢が出来るようになる。基本姿勢を軸にしながらリズムトレーニングが出来る様になる。ロックダンスの歴史を学
2	トゥエルの基礎が出来る様になる。自分の手や足の長さを把握し、それに合ったトゥエルの高さの位置を設定すること
3	ロックの基礎が出来る様になる。ロックが出来ることにより止まる楽しさを知る事が出来る。
4	ペイシングの基礎が出来る様になる。ロックダンスにおける呼吸方法を習い瞬発力を身につける。
5	セルフファイブの基礎が出来る様になる。体から音を鳴らし、音楽に対してのアプローチ方法を増やすことが出来る様になる。
6	ポイントの基礎が出来る様になる。ストップルック、リズムルックを理解し鏡から目線を外す事が容易になることが出来
7	基礎が出来る様になったファイブエレメンツを組み合わせて踊れる様になる。
8	シャッフル、スクービードゥ、ストップアンドゴーが出来る様になる。
9	スキーターラビット、スクーバーホップが出来る様になる。
10	実技テストの内容を把握し、テスト前のメンタルを整えることが出来る様になる。
11	実技テストの振りを練習し出来る様になる。
12	実技テスト
13	イベント週を通して周りと協力しなから作品をつくることができる
14	イベント週を通して舞台のリハーサルを経験することができる
15	イベント本番 舞台に立ち、実際にパフォーマンスを披露することができる

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	【　殺陣　】 LOCK(4)	必修選択	必修選択	年次	2	開講区分	後期
学科	パフォーミングアーツ科昼間Ⅰ部	授業形態	演習	総時間（単位）	60 (4)	担当教員	船木稜
教員の略歴	KING DANCE MATURI FINAL10 優勝　PLW-1LOCKSIDE北海道大会優勝、東京大会BEST4　他優勝多数						
授業の学習内容	・即興力を身につける。 ・音楽の感じ方を増やし、感性を身につける。 ・自分のオリジナリティ溢れるロックダンスを探し、探究心を身につける。						
到達目標	・基礎のシルエットをかっこよく崩すことが出来る。 ・音楽アプローチの手段を増やし、よりSTOPが良くなるようにする事が出来る。 ・即興でロックダンスを踊れる様になる。						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						

回数	授業計画・内容
1	上腕三頭筋をコントロールし、STOPの質をあげれる様になる。リズムキープしながら、5エレメンツを踊る事が出来る様になる。
2	5エレメンツの磨き上げ癖をつける。胸のアイソレーションのコントロールが出来る様になる。
3	他ジャンルの音楽でロックダンスを即興で踊れる様になる。
4	耳のトレーニングをし、多様な音楽の聴き方が出来る様になる。それを活かし即興で踊る事が出来る様になる。
5	5エレメンツをパズルのように組み合わせて踊る事が出来る様になる。
6	ダンスセッションを学び、出来る様になる。
7	ロックダンスの振り付けを創れる様になる。
8	ロックダンスの技の振り付けを８×８間違えずに踊る事が出来る様になる。
9	5エレメンツの振り付けを８×８間違えずに踊る事が出来る様になる。
10	実技テストの内容を把握し、テスト前のメンタルを整えることが出来る様になる。
11	実技テストの振りを練習し出来る様になる。
12	実技テスト
13	進級制作展 準備週を通して周りと協力しなから作品をつくることができる
14	進級制作展 準備週を通して舞台のリハーサルを経験することができる
15	進級制作展 舞台に立ち、実際にパフォーマンスを披露することができる

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	【　キャリアデザイン　】 JAZZ HIPHOP(3)	必修選択	必修選択	年次	2	開講区分	前期
学科	パフォーミングアーツ科昼間Ⅰ部	授業形態	演習	総時間（単位）	30 (2)	担当教員	長尾咲

教員の略歴	ダンススタジオNATIVEにてインストラクター
授業の学習内容	ダンスの職に就くにあたり、基礎的な動き、適応能力を養う。振り付けを主にし、一人一人の個性を引き出して表現を習得する。授業は基礎アイソレーション、ストレッチ、振り付けを行い、JAZZのクラスをベースとして進行。授業中に撮影をしSNSにて個人をアピールできる。
到達目標	応用の動きの習得、振り付けなどを自ら表現できて自分でも作り出せるようになる。
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する

回数	授業計画・内容
1	応用アイソレーション、ストレッチの解説、振り付け4エイトを覚えることができる
2	応用アイソレーション、ストレッチの解説、振り付け4エイトを前回より早く覚えることができる
3	前回の応用アイソレーション、ストレッチの実践。振り付けを伸ばし(8×8)を覚えることができる
4	人前で披露、チームに分けて人前に出て披露できる
5	実力を人前で発揮する力を身につける
6	4×8の振りを短時間で覚える力を身につける
7	4×8の振りをより短時間で覚える力を身につける
8	4×8の振りを短時間で正確に覚える力を身につける
9	8×8以上の振りを50分で覚えきることができる
10	8×8以上の振りを1レッスンで踊りきることができる
11	8×8以上の振りを1レッスンで踊りきることができ人前で自信を持って踊れるようになる
12	前期実技テスト　自分の実力を知り、課題を見つけ出せる
13	イベント週を通して周りと協力しながら作品をつくることができる
14	イベント週を通して舞台のリハーサルを経験することができる
15	イベント本番 舞台に立ち、実際にパフォーマンスを披露することができる

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	【　キャリアデザイン　】 JAZZ HIPHOP(4)	必修選択	必修選択	年次	2	開講区分	後期
学科	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	30 (2)	担当教員	長尾咲

教員の略歴	ダンススタジオNATIVEにてインストラクター
授業の学習内容	ダンスの職に就くにあたり、基礎的な動き、適応能力を養う。振り付けを主にし、一人一人の個性を引き出して表現を習得する。授業は基礎アイソレーション、ストレッチ、振り付けを行い、JAZZのクラスをベースとして進行。
到達目標	応用の動きの習得、振り付けなどを自ら表現できて自分でも作り出せるようになる。
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する

回数	授業計画・内容
1	8×8の振り付けを40分で覚えることができる（服装指定あり）
2	振り付けを伸ばし(12×8)を覚えることができる（服装指定あり）
3	人前で披露、チームに分けて人前に出て披露させることができる
4	8×8の振り付けを40分で覚える、自ら振り付けを2エイト考える力を身につける
5	振り付け思考を鍛えることができる
6	覚えた振り付けと自分の考えたダンス発表 課題を見つけることができる
7	16×8以上の振りを1レッスンで踊りきることができる
8	16×8以上の振りを1レッスンで踊りきることができ人前で自信を持って踊れるようになる
9	12×8の振り付けを50分で覚える、チーム構成付けを学ぶことができる
10	チーム構成作り振り付け思考を鍛えることができる
11	撮影用に構成作り、撮影の手順を身につけることができる
12	後期実技テスト　1年を振り返り、課題を見つけることができる
13	イベント週を通して周りと協力しなから作品をつくることができる
14	イベント週を通して舞台のリハーサルを経験することができる
15	イベント本番 舞台に立ち、実際にパフォーマンスを披露することができる

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	【　パフォーマンス　】 コンテンポラリー(3)	必修選択	必修選択	年次	2	開講区分	前期
学科	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	90 (6)	担当教員	渡部倫子
教員の略歴	モダンダンスから海外交流事業に参加し、2005年ダンスコンペで新人賞を受賞してコンクール用の振付をスタート　本吉星菜（YAGP日本予選 top12 /ミラノスカラ座バレエ）をはじめ道内ダンサーのコンテ部門振付に携わる						
授業の学習内容	①身体、指先すみずみまで使って表現することができるようになる。 ②バレエ、Jazz、クリエーションなど、美しく踊るジャンルの授業と、学校イベントのミュージカルなどの表現分野に応用ができる。 ③自分の特色を生かして自由に表現ができるダンサーになる。そのために、動作やアングル、アームスから上体の使い方、フットポジションの基礎を身につける。						
到達目標	1、リリーステクニックをつかいながらフロアワークができるようになる。2、上体とアームスを連動連続してより美しく使えるようになる。3.体幹を安定させながらオフバランスができるようになる。4.自分で曲と動きを決めて踊ることができるようになる。						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						

回数	授業計画・内容
1	コアの強化と股関節可動。転がりから立つことができるようになる。コンテピースを踊ることができるようになる。①
2	コアの強化と股関節可動。転がりから立つことができるようになる。コンテピースを踊ることができるようになる。②
3	アームスの使い方を知り、立位での背骨の動きができるようになる。コントラクション＆スイングのプリエができるようになる。
4	アームスの使い方を知り、ターンの応用ができるようになる。スイング＆ターンができるようになる。
5	ターンの応用を身につけることができる。スイング＆アラベスクターンからフロアワークができるようになる。①
6	ターンの応用を身につけることができる。スイング＆インサイドターンからフロアワークができるようになる。②
7	6のチェック日　ターンテスト
8	コンテンポラリーコンビネーション1、 スイング＆リリースが入ったコンビネーションを踊ることができるようになる。
9	コンテンポラリーコンビネーション2、 フロアワークが入ったコンビネーションを踊ることができるようになる。
10	コンテンポラリーコンビネーション3、スイング＆ターンが入ったコンビネーションを踊ることができるようになる。
11	実技テスト
12	実技テスト予備日
13	イベント週を通して周りと協力しなから作品をつくることができる
14	イベント週を通して舞台のリハーサルを経験することができる
15	イベント本番 舞台に立ち、実際にパフォーマンスを披露することができる

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	【　パフォーマンス　】 コンテンポラリー(4)	必修選択	必修選択	年次	2	開講区分	前期
学科	パフォーミングアーツ科昼間Ⅰ部	授業形態	演習	総時間（単位）	90 (6)	担当教員	渡部倫子

教員の略歴	モダンダンスから海外交流事業に参加し、2005年ダンスコンペで新人賞を受賞してコンクール用の振付をスタート　本吉星菜（YAGP日本予選 top12 /ミラノスカラ座バレエ）をはじめ道内ダンサーのコンテ部門振付に携わる
授業の学習内容	①身体、指先すみずみまで使って表現することができるようになる。 ②バレエ、Jazz、クリエーションなど、美しく踊るジャンルの授業と、学校イベントのミュージカルなどの表現分野に応用ができる。 ③自分の特色を生かして自由に表現ができるダンサーになる。そのために、動作やアングル、アームスから上体の使い方、フットポジションの基礎を身につける。
到達目標	1、リリーステクニックをつかいながらフロアワークができるようになる。2、上体とアームスを連動連続してより美しく使えるようになる。3.体幹を安定させながらオフバランスができるようになる。4.自分で曲と動きを決めて踊ることができるようになる。
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する

回数	授業計画・内容
1	コアの強化と股関節可動についての振り返り。①コンテピースを踊ることができるようになる。
2	コアの強化と股関節可動についての振り返り。②転がりから立つことができるようになる。
3	コントラクション＆スイングのプリエの応用。
4	スイング＆ターンの応用。
5	スイング＆アラベスクターンからフロアワーク応用につなげる。
6	ターンの応用を身につけることができる。
7	6のチェック日　ターンテスト
8	コンテンポラリーコンビネーション1、 スイング＆リリースが入ったコンビネーションを踊ることができるようになる。
9	コンテンポラリーコンビネーション2、 フロアワークが入ったコンビネーションを踊ることができるようになる。
10	コンテンポラリーコンビネーション3、スイング＆ターンが入ったコンビネーションを踊ることができるようになる。
11	実技テスト
12	実技テスト予備日
13	イベント週を通して周りと協力しなから作品をつくることができる
14	イベント週を通して舞台のリハーサルを経験することができる
15	イベント本番 舞台に立ち、実際にパフォーマンスを披露することができる

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	【　朗読　】 K-POP(3)	必修選択	必修選択	年次	2	開講区分	前期
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	60 (2)	担当教員	福井龍平
教員の略歴	北海道ダンスプロジェクト会員、Artist training & development Performance trainer、 Dance+Space JUICYact.3 SAPPORO 代表、tres box sapporo 代表						
授業の学習内容	本クラスを通じて、アーティスト、アイドル、ダンサーなど韓国の音楽業界で活躍できるよう 基本技を大切に応用的なパフォーマンストレーニングでステージングスキルを身につける。 オーディション対策で自らのスキルを発揮できるパフォーマンス・メンタルを形成し実践に活かす。						
到達目標	①個人練習生として総合的なステージパフォーマンススキルを身につける。 ②正しいトレーニングで身体的・心理的能力を向上させる。 ③オーディションに向けた基本事項からパフォーマンス準備などを総合的に学び、習得する。						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する。						

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	授業シラバスの確認・現状のスキルチェックテストを実施しフィードバックを受けて改善することができる。
2	K-POPダンスの基本的概念（リズム、ラインコントロールなど）の基礎・応用ができるようになる。
3	振付を通し個人の現在のパフォーマンスレベルを確認・評価することができる。
4	表情管理やカメラチェックを通じてステージング表現の応用を身につける。
5	（基本）個人で自主制作をした振付でパフォーマンスすることができる。
6	高難易度のトレーニングを実践し、自己評価できる。
7	高難易度の振付を実践し、レベルの高いパフォーマンス能力を身につける。
8	（個人）K-POPダンスを通じ、一つの作品でステージをトータルプロデュースできるようになる。
9	オーディション対策講義を実施し、自分に必要な知識を取り入れることができる。
10	（個人）K-POPダンスを通じ、一つの作品でステージと自分自身をトータルプロデュースできる。
11	K-POPアーティストに求められるスキルを確認し、自己評価できる。
12	【評価・テスト】年間を通じて得たスキルを確認し自己評価できる。
13	イベント週を通して周りと協力しながら作品を作ることができる。
14	イベント週を通して舞台のリハーサルを経験することができる。
15	イベント本番舞台に立ち、実際にパフォーマンス披露することができる。
【使用教科書	

科目名	【　　朗読　　】 K-POP(4)	必修選択	必修選択	年次	2	開講区分	後期
学科・ｺｰｽ	パフォーミングアーツ科昼間Ⅰ部	授業形態	演習	総時間（単位）	60 (4)	担当教員	福井龍平
教員の略歴	北海道ダンスプロジェクト会員、Artist training & development Performance trainer、 Dance+Space JUICYact.3 SAPPORO 代表、tres box sapporo 代表						
授業の学習内容	本クラスを通じて、アーティスト、アイドル、ダンサーなど韓国の音楽業界で活躍できるよう 基本技を大切に応用的なパフォーマンストレーニングでステージングスキルを身につける。 オーディション対策で自らのスキルを発揮できるパフォーマンス・メンタルを形成し実践に活かす。						
到達目標	①個人練習生として総合的なステージパフォーマンススキルを身につける。 ②正しいトレーニングで身体的・心理的能力を向上させる。 ③オーディションに向けた基本事項からパフォーマンス準備などを総合的に学び、習得する。						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する。						

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	現状のスキルチェックテストを実施しフィードバックを受けて改善することができる。
2	K-POPダンスの基本的概念（リズム、ラインコントロールなど）の基礎・応用の強化ができる。
3	ボディメイクアップなどの強化トレーニングを実践し、自己評価できる。
4	【模擬審査①】オーディションにおける審査ポイントを抑えパフォーマンスを準備できる。
5	【模擬審査②】週末評価における審査ポイントを抑えパフォーマンスを準備できる。
6	【模擬審査③】月末評価における審査ポイントを抑えパフォーマンスを準備できる。
7	ダンスリズムを意識した高難易度の振付をできるようになる。
8	ラインコントロールを意識した高難易度の振付をできるようになる。
9	ステージング表現の応用（俯瞰でパフォーマンスを考察）ができる。
10	（チーム）チームパフォーマンス制作を実施し、コンセプトに合わせた作品を作り上げることができる。
11	（チーム）チームパフォーマンス制作を実施し、中間点検によるフィードバックでレベルの高い作品を作ることができる。
12	【評価・テスト】（チーム）パフォーマンスの映像撮影を実施しチームパフォーマンスの完成形を体感し身につける。
13	後期定期試験を通して周りと協力しながら作品を作ることができる。
14	進級制作展を通して舞台のリハーサルを経験することができる。
15	進級制作展舞台に立ち、実際にパフォーマンス披露することができる。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名	【　　楽器演奏　　】 HOUSE(3)	必修選択	必修選択	年次	2	開講区分	前期
学科	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	30 (2)	担当教員	櫻井啓輔
教員の略歴	合同会社SWELLにてインストラクター、アーティストバックダンサー多数経験						
授業の学習内容	基礎となるアイソレーションや、リズムトレーニングを行いダンスの基礎を学び表現力を身につける。						
到達目標	STEPやフロアコントロールを中心に授業を展開し、即戦力となるダンサーになる						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						

回数	授業計画・内容
1	目標に向けた道筋をたて、意思表示をより明確に示すことができる
2	よりダンサーに必要な体力作りを学ぶことができる
3	アイソレーションで身体の各場所を分けて使うことができる
4	リズム応用①(音をきいてリズムをとれるようになる)
5	リズム応用②(リズムに合わせて自然な動きができるようになる)
6	STEP応用①(HOUSEの応用ステップを学ぶことができる)
7	STEP応用②(ステップの名前を理解し、実際に踏めるようになる)
8	STEP応用③(ステップを使った応用ルーティンにチャレンジできる)
9	振り付け応用①(振り付け応用①を覚え、踊れるようになる)
10	振り付け応用②(振り付け応用②を覚え、自分なりの表現を加えて踊れるようになる)
11	振り付け応用③(振り付け応用③を覚え、周りの空間を意識しながら踊れるようになる)
12	前期テスト 前期の成果を発表することができる
13	イベント週を通して周りと協力しなから作品をつくることができる
14	イベント週を通して舞台のリハーサルを経験することができる
15	イベント本番 舞台に立ち、実際にパフォーマンスを披露することができる

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	【　　楽器演奏　　】 HOUSE(4)	必修選択	必修選択	年次	2	開講区分	後期
学科	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	30 (2)	担当教員	櫻井啓輔
教員の略歴	合同会社SWELLにてインストラクター、アーティストバックダンサー多数経験						
授業の学習内容	基礎となるアイソレーションや、リズムトレーニングを行いダンスの基礎を学び表現力を身につける。						
到達目標	STEPやフロアコントロールを中心に授業を展開し、即戦力となるダンサーになる						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						

回数	授業計画・内容
1	前期のおさらいをして後期の目標をたてることができる
2	難易度の高いフロア・コンタクトを学ぶことができる
3	振り作り①(曲を選び、イメージをたてることができる)
4	振り作り②(振りを自分で考え、構成も踏まえて作ることができる)
5	振り作り③(反復練習でより振りの完成度を高めることができる)
6	パフォーマンスの強化①(自分のパフォーマンスを見直し課題を見つけることができる)
7	パフォーマンスの強化②(プロのパフォーマンスを研究して取り入れることができる)
8	HOUSEダンスに関しての最新の情報を学ぶことができる
9	振り付け応用④(振り付け応用④をより早く覚え、踊れるようになる)
10	振り付け応用⑤(振り付け応用⑤をより早く覚え、自分なりの表現を加えて踊れるようになる)
11	振り付け応用⑥(振り付け応用⑥をより早く覚え、周りの空間を意識しながら踊れるようになる)
12	後期テスト 前期の成果を発表することができる
13	進級制作展 準備週を通して周りと協力しなから作品をつくることができる
14	進級制作展 準備週を通して舞台のリハーサルを経験することができる
15	進級制作展 舞台に立ち、実際にパフォーマンスを披露することができる

【使用教科書・教材・参考書】